

<報告>

新潟県佐渡市におけるハマベノギク *Heteropappus hispidus* subsp. *arenarius* の新産地

島野理恵¹・清水 明²・清水輝子²・島野光司^{3*}

New distribution of *Heteropappus hispidus* subsp. *arenarius* in Sado Island, Niigata Prefecture. Rie SHIMANO¹, Akira SHIMIZU², Teruko SHIMIZU² and Koji SHIMANO^{3*} (¹Yokota, Matsumoto City, Nagano Prefecture, ²Chigusa, Sado City, Niigata Prefecture, ³Faculty of Science, Shinshu University, 3-1-1 Asahi, Matsumoto, 390-8621 Japan, *E-mail: shimano@shinshu-u.ac.jp) *Bulletin of the Institute of Nature Education in Shiga Heights, Shinshu University* 51: 15-16 (2014).

We found a new distribution of *Heteropappus hispidus* subsp. *arenarius* in Sado Island, Niigata Prefecture, Japan. Until now, it was known that this species was distributed in west of Toyama Prefecture, but it grows in a sea coast of Sado Island, east of Toyama. The sea coast is sandy beach with typical sandy beach plant species like *Carex kobomugi*, *Messerschmidia sibirica*, *Wedelia prostrata*, *Vitex rotundifolia*, *Calystegia soldanella*. Many individuals of *Heteropappus hispidus* subsp. *arenarius* grow there, and make communities with other plants mentioned above. The distribution was not reported, and then we did it.

2013年10月20日、新潟県佐渡市（佐渡島）でこれまで分布が報告されていなかったハマベノギク（*Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less. subsp. *arenarius* (Kitam.) Kitam.）の分布を確認したので、報告する。

ハマベノギクはキク科ハマベノギク科の越年草で海岸の浜辺に生育する種である。茎は倒伏し、葉は厚く、さじ型で鋸歯はないが葉の縁に毛を有する。花のうち、舌状花は紫がかった青色で、筒状花には4 mm程度の明らかな冠毛を有する（写真1）。

生育を確認した場所は佐渡市亀脇の素浜海岸である（写真2）。この海岸は、小佐渡山脈の小木半島北東部に位置する海岸で、遠浅の渚が4 kmにわたって続く島内で最長を誇る砂浜海岸である。宮脇（1993）によると小佐渡山脈は85~100°C・月と暖温帯に属する。また気象庁によると、近接する羽茂の1981年から2010年までの30年間の年平均気温は13.1°Cであり最高気温が29.7°C、最低気温が-0.4°C、年間降水量は1657.3mmである気象観測（電子閲覧室）ホームページ。新潟県佐渡市羽茂。http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/nmlamd_ym.php?prec_no=54&block_no=0996&year=&month=&day=&view=。佐渡のフロラ（植物相）

は日本海型であるが、島の特殊性、季節風や海流の影響で植生の様相は複雑である。佐渡の東南部では暖流の影響で暖温帯的であるのに対し、北西の海岸は冬季の季節風をうけ冷温帯的である（両津市郷土博物館 1997）。気温は、冬季は同緯度にある新潟市



写真1. 佐渡で確認されたハマベノギク



写真2. ハマベノギクの確認された佐渡市の素浜海岸

¹ 長野県松本市横田² 新潟県佐渡市千種³ 信州大学理学部（*別刷請求先〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 E-mail: shimano@shinshu-u.ac.jp）

よりも高く、夏季には低い傾向が見られる。これは佐渡周辺海域にある対馬暖流や沖合深所にリマン寒流が潜流して冷水塊を形成し、これらの二つの海流の速度や方向が季節によってさまざまに変化し、島の気候に影響を与えていることが原因である（両津市郷土博物館 1997）。

北村（1981）、北村ら（1998）によればハマベノギクは本州（富山県以西の日本海岸）、九州に分布しているとされ、佐渡ならびに新潟県での分布は報告されていない。また、分布の北限とされている富山県では「絶滅+野生絶滅（富山県内において野生ですでに絶滅したと考えられる種）」に指定されており、能登半島国定公園特別地域内指定植物となっている（富山県 2012）。

ハマベノギクが生育していた周辺の植生はコウボウムギ *Carex kobomugi* Ohwi, スナビキソウ *Mes-serschmidia sibirica* L., ネコノシタ *Wedelia prostrata* (Hook. et Am.) Hemsl., ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L. fil., ハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) Roem. et Schult.などが生育しており、やや離れた陸地側にはチガヤ *Imperata cylindrica* (L.) Beauv. が生育していた。これは、典型的な海浜植生である。

現地で確認されたハマベノギクの個体は複数で、上記を含む種と群落を形成していた。生育を確認した2013年10月19日の時点では花は咲いているものの最盛期は過ぎており、舌状花、筒状花とも花弁を落とし、冠毛の目立ったものも多かった（写真1）。

土倉ら（1988）によると、ハマニガナ、ネコノシタ、ハマベノギクなど海岸性キク科植物は、種子の海流散布によらないでランナーやシュートによって開放立地に進出できる多年生でなければならないものと考えられるとされている。しかし、富山以西の日本海側にしか生育していないハマベノギクが佐渡

で確認されたことから、海流散布の可能性も考えられる。

複数の文献をレビューし、佐渡島に生育する植物を網羅した本間（2002）の「佐渡島の植物（羊歯・種子植物）」には、ハマベノギクの記載がない。また、近刊のいがり（2007）の「日本の野菊」でも新潟県そのものに分布がない。そのため、現状を報告する次第である。なお、標本は長野県環境保全研究所ならびに信州大学に収めた。標本番号はそれぞれ NAC168274（長野県環境保全研究所）、SHIN69137（信州大学）である。

長野県教育委員会の遠藤公洋氏、ならびに新潟県教育庁の齋藤達也氏には行政上の手続きに関してご教示を賜った。清水智子女史には標本作製時に作業をお手伝いいただいた。以上の方々にお礼申し上げます。

引用文献

- 本間健一郎（2002）佐渡島の植物（羊歯・種子植物）．新津植物資料室（積雪地域植物研究所），新潟．
- いがりまさし（2007）日本の野菊．山と溪谷社，東京．
- 北村四郎・村田 源・堀 勝（1998）原色日本植物図鑑・草本編 I 改訂67刷．保育社，大阪．
- 北村四郎（1981）キク科．「日本の野生植物 草本III 合弁花類」（佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫），pp.156-235，平凡社，東京．
- 宮脇昭（1993）日本植生誌中部．至文堂，東京．
- 両津博物館（1997）郷土を知る手引 佐渡一島の自然・くらし・文化一．両津，新潟．
- 富山県（2012）富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま2012—．富山県生活環境文化部自然保護課，富山．
- 土倉亮一・田中徹・矢延直樹（1988）久美浜海岸砂丘における海流散布種子．京都教育大学紀要 73：25-30．